

第5節 総合考察

今回の調査から浮かび上がってきた問題点と、その解決のために必要とされていることとがらについて第4節で明らかにした。

一部の先進的な学級を除き、大多数の院内学級の ICT 環境は、不十分なままであることが分かった。

では、どうしたら院内学級に、必要なパソコンや周辺機器をそろえることができるのか。また、どこにどのように要望を出せば、高速インターネット接続が可能になるのだろうか。こうした点について ICT 環境を整備するためのノウハウが必要であると考ええる。

院内学級担当教員のコンピュータやインターネットの使用率は高い。しかし、スキルに不安を持つ初心者は、機器のトラブル等に一人で対処することが困難であり、ICT の活用に積極的に取り組めない。かといって、本校と物理的に離れた場所では即トラブル解決とはいかないのが現実である。

それでは、院内学級担当教員は誰にどのようにサポートをしてもらえるのだろうか。

インターネットで外部とのつながりを持つにあたり、ルールやモラルを無視することはできない。単に「知らなかった」ではすまされない。最悪の場合、自分や児童生徒が犯罪に巻き込まれる可能性もある。児童生徒に対し、正しいインターネットの活用を指導するために、まず教員自身が著作権やセキュリティ管理等に対する意識を改善し、情報モラルの向上をはからなければならない。

では、どこで、どのようにそれらを学ぶことができるのだろうか。

学校や家庭にパソコンやインターネットが普及し、入院している児童生徒のほぼ全員が、それらを使用した経験を有する。また、コンピュータやインターネットの活用は、院内学級の児童生徒にとって有効であると 90%以上の担当教員が認めている。しかし、指導する側の教員の意欲、知識、技能によって、児童生徒の活用バリエーションに差が生じるのは推測に難くない。

院内学級で ICT を活用するにあたり、入院中の児童生徒の特性をふまえた ICT 活用のノウハウが必要とされている。

入院中の児童生徒は、頻りに会えない家族や友人とのコミュニケーションを欲している。コミュニケーションの道具として、Eメールは有効な手段である。また、院内学級担当教員が家族や前籍校担任、病院スタッフと連絡する手段としてEメールのメリットは大きい。

さらに、Eメールを利用したメーリングリストは、一人担任が多数を占める院内学級担当教員が、全国規模でつながり、日常的に情報交換できる手段である。

このように、さまざまな場面でのEメールの活用法についてノウハウが求められている。

院内学級の**Web**サイトの公開は、これからの感がある。筆者は、そよ風分教室での経験から、**Web**サイトに院内学級の情報を公開することのメリットは非常に大きいと考える。外部との新しいつながりが生まれ、交流することで、院内学級の児童生徒の**QOL**を高めることができる。今後、院内学級の**Web**サイト公開が促進されることを望む。

では、**Web**サイトの作成に取り組むにあたり、掲載内容や運営にどのような注意が必要か、また、公開の方法として、どこに情報を置くのかなどについて、ノウハウが求められている。

以上のような要望にこたえるべく、次章では「**ICT**の有効活用ガイド」として、院内学級担当教員に向けて具体的な提案をしたい。